

あおもり 国際交流つうしん

国際交流情報誌

10

2018
No.130

研修会「外国につながる子どもへの日本語学習支援」を実施しました

7月28日（土）、リンクステーションホール青森の小会議室において、研修会「外国につながる子どもへの日本語学習支援」を開催し、日本語ボランティアや教育関係者、会社員など計28名の皆様にご参加いただきました。

はじめに当協会常務理事より、事業及び研修会実施に至った経緯、県内の外国につながる児童生徒日本語学習支援や多文化共生に関する現状などについて申し上げ開会しました。

今回、全国各地で講師を務められており、著書『日本語学級』で知られている一般財団法人波多野ファミリスクール執行理事・学監の大蔵守久氏から、子どもが楽しみながら学習意欲を高められる日本語習得段階別の具体的な指導内容や、グループワークを取り入れるなど、外国につながる子どもへの日本語学習支援についてご指導いただきました。



参加者アンケートのご意見を一部ご紹介します。

- ・指導手法もさることながら、子どもへの接し方についても学ぶべきことが多かった。
- ・成人相手でも使えるテクニックがたくさんあり、大変参考になった。
- ・豊かな実践に裏付けられた的確な指導の方法にふれることができた。
- ・以前指導していて疑問に思った点、困った点が解消された。

本研修会にご参加いただきました皆様、ご協力いただきました関係機関の皆様、誠にありがとうございました。

募集しています

■ 賛助会員 supporting member

国際交流・協力に関する事業に、できるだけ多くの皆様のご理解、ご協力をいただきたく、賛助会員の募集を行っております。
Donations from supporting members are spent on our activities to promote international cooperation.

■ 国際交流ボランティア volunteer

国際交流活動に参加するボランティアを募集しています。

People who are interested in internationalization are invited to participate in our volunteer program.

お問い合わせ・お申し込みは、青森県国際交流協会まで。TEL : 017-735-2221 E-mail : info@kokusai-koryu.jp

学校法人青森山田学園と連携協定を締結しました



塩越会長（左）と岡島理事長（右）

青森山田学園としては目標である「地域への貢献」について大きな役割を果たすこととなり、当協会としてはこれまで懸案であった青森地域の多文化共生を推進するセンターづくりの第一歩となることから、今後さらなる事業進捗が期待されます。

今後は連携協定に基づき、多文化共生に関するプロジェクトを推進する予定です。

学校法人青森山田学園と当協会は、県内における多文化共生の一層の促進を図ることを目的に連携協定を締結することにし、8月3日（金）、青森大学にて調印式を行いました。

調印式には、青森山田学園岡島理事長、青森大学金井学長、青森山田高等学校花田校長が出席し、当協会からは塩越会長、角常務理事、工藤理事が出席しました。



*写真は青森大学よりご提供いただきました

パラグアイから平成30年度青森県海外技術研修員が来日しました

今年度の海外技術研修員である渡部 伊藤 ニコラス 浩二さんが8月22日に来日し、学校法人青森山田学園青森大学と青森山田高等学校、その他県内企業等で11月まで技術研修を行います。

来青して半月が過ぎましたが、技術研修のみならず、民間団体が実施した在住外国人が講師を務める料理教室へ積極的に参加するなど、地域の方との交流を楽しみ、英語が得意なことから講師の方の通訳も務めたとのことでした。

短い期間ではありますが、青森を楽しんでいただきたいと思います。



国際文化交流クラブ主催の料理教室講師とともに
(青森大学国際教育センター 新山様提供)



今年度で42回目となるこの事業は、南米諸国から将来を担う若者を青森県へ受け入れ、必要な技術の習得及び県民等との交流を通じ、その研修員の属する国の経済開発と繁栄に貢献するとともに、県との交流推進に寄与する人材の育成を推進することを目的として、昭和49年より続いており、これまでに254人の研修員が青森県での研修を修了しています。

台湾ミニ文化講座を開催しました



ユアンバオ

「元寶」専用の折り紙は、色鮮やかに金と銀でキラキラしており、国籍年齢問わず大人気です。鮮やかな色の台湾の折り紙と特徴的な形に興味を持ったお子様から大人まで、幅広い層の方々にご体験いただき、プレゼントとして対（金・銀）でお持ち帰りいただきました。講座終了後も受付カウンターにてご紹介・配布しており、職員が簡単に説明するとご興味を示される方が大変多く、反響の大きさに驚いています。

この夏、ご先祖様も一緒に異文化交流となったのではないのでしょうか。

※「元寶」の折り紙の配布は、無くなり次第終了となりますのでご了承ください。

今後も国際交流ラウンジ運営サポーターやボランティアによる講座等の開催を予定しています。詳細が決まり次第ホームページ等でご案内します。

当協会の国際交流ラウンジ運営サポーターの戴^{タイ}淑貴^{スウクエイ}氏が講師を務め、7月25日と8月10日は「元寶」、8月26日は「蓮花」の作り方を中心に、日本とはひと味違うお盆の過ごし方や風習などを参加者の皆さんに学んでいただく「台湾ミニ文化講座」を、国際交流ラウンジにて開催しました。

「元寶」はお盆の時期にご先祖様にお供えする「お金」を表しているそうで、「蓮花」は仏様と深い関わりを持つ蓮の花の折り紙です。



元寶（ユアンバオ）



蓮花（レンファ）

青森県立美術館等から在伯青森県人会へ図書が寄贈されました

青森県立美術館スタッフの柿崎正規氏が4月にブラジルを訪れた際、サンパウロにある在伯青森県人会館を訪問し、青森県立美術館より寄贈された書籍数点や、グラフ青森社より寄贈された青森市内の写真等が掲載された書籍、むつ市の御菓子司甘美堂より提供された「べごもち」等を、在伯青森県人会へ手渡しました。

在伯青森県人会の名和会長から「大変ありがたい。会館

で大切に使用させていただきたい。」

とお礼の言葉をいただいたそうです。

また、サンパウロでは7月に「日本祭り」が開催され、日本人移住110周年を記念した「郷土料理500食を集めてギネスに挑戦しよう」という試みがあり、その事前準備として「あおり食名人」である柿崎氏の奥様が、数種類の郷土料理等を指導し、県人会の方々とともに召し上がりました。



柿崎氏の奥様と県人会員による郷土料理づくり



寄贈された図書を手を喜び名和会長（右）と玉城副会長

済州・青森子どもの美術交流プログラム～青森受入れ

青森県と済州特別自治道の姉妹都市交流を一層推進するため、昨年度から小学生を中心とした美術交流プログラムを実施しています。

今回は、昨年度プログラムに参加した済州の児童6名が来日し、7月23、24日の2日間にわたり、青森県の昨年度参加児童6名と今年度参加児童10名とが、共に行ったプログラムの様子をお知らせします。

初日は青森県立美術館において、青森県からの参加児童が横断幕を持って済州の児童をお出迎えしました。昨年度から参加している児童たちは、約半年振りの再会に興奮している様子でした。

美術館でのプログラムでは3グループに分かれ、今年度からの参加児童が事前ワークショップでプログラム用に作成したしおりを元に館内探検ツアーを行いました。しおりに、児童が撮影した写真とヒントが記載されており、児童たちは協力して撮影場所を探し、最後は「あおり犬」にたどりついて、ツアーは終了となりました。

午後のプログラムではオリジナルの「あおり犬」を制作し、個性豊かな様々な「あおり犬」が完成しました。

その後は、しおりにメッセージの交換をしたり、済州の児童は日本語、青森県の児童は韓国語で名前を書いたり、積極的に交流が行われました。



青森県立美術館でお出迎え



しおりをたよりに館内探検ツアー



完成した「あおり犬」を持って記念撮影

翌日は青森市からバスで十和田方面へ向かいました。バスの中では、済州と青森県の児童が隣同士で座り、スマートフォンの写真や翻訳アプリ、韓国国際交流員が作成した会話カード等を使って意思疎通を図り、韓国の音楽を聴きながら、和気あいあいとした雰囲気でした。

十和田市現代美術館では直に触れたりしながら現代アートを堪能し、奥入瀬渓流ではガイドさんの案内で40分ほどの「コケさんぽ」を体験し、ルーペを使って様々な種類の苔を観察しました。



十和田市現代美術館にて



奥入瀬渓流での苔ツアー

2日間の交流を終え、別れる際には「アンニョン」「さようなら」とすっかり仲良くなり、離れがたいように別れを惜しんでいました。

次号は、7月29日～8月1日に済州を訪問して行われた交流プログラムの様子をお知らせします。

今年は、台風7号と梅雨前線の影響による「平成30年7月豪雨」や、非常に強い勢力で上陸した台風21号により、全国各地で甚大な被害が発生しました。

さらに、9月6日には、マグニチュード6.7の「平成30年度北海道胆東部地震」が発生し、災害が続きました。

被災された方々には心よりお見舞い申し上げると共に、復興に尽力されている皆様には安全に留意されご活躍されることをお祈りいたします。

テレビやラジオで避難を呼びかける災害情報は、日本人でもよくわからないという話をよく耳にします。

そこで今回は、青森県防災ホームページで公開されている「自治体が発令する避難情報を正しく理解していますか？」のポスターを元に、避難情報の違いと取るべき行動について、弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室が作成した『さくさく作成！「やさしい日本語」を使った緊急連絡のための案文集②～災害時におけるスマートフォンメールでの連絡編～』の例文に照らし合わせて、災害時に外国人にもわかる日本語表現で情報を伝えるカテゴリⅠに分類される「やさしい日本語」で作成し、研究室の皆様にご監修いただきました。



ニュースが あったときは すぐに 逃げて ください		ニュースが あったときは 次のことをして ください
避難の ニュース	どれくらい 危険か	
避難準備・高齢者等避難開始 ＜逃げるための 準備をして ください＞ おじいさんや おばあさんなどは 逃げて ください＞		逃げることを 知らせます 次の人は 避難して ください ＜逃げる人＞ ・お年寄り（おじいさんや おばあさん） ・体が 自由に 動かない人 ・お腹に 赤ちゃんが いる人 避難所や 安全な ところへ 逃げて ください 避難所は みんなが 逃げる ところです
避難勧告 ＜逃げて ください＞		逃げることを 知らせます 避難して ください 避難所や 安全な ところへ 逃げて ください 避難所は みんなが 逃げる ところです
避難指示（緊急） ＜すぐに 逃げて ください＞		逃げることに なりました すぐに 避難して ください すぐに 避難所や 安全な ところへ 逃げて ください 避難所は みんなが 逃げる ところです 逃げるのが できないときは 建物の 中に いて ください できるだけ 高い ところへ 行って ください 山から 遠い ところへ 行って ください

※注意：スマートフォンでは、漢字の上にふりがなをつけることができませんので、漢字の横に（ ）をつけてふりがなを入力します。また、外国人にもわかる日本語表現で情報を伝えるカテゴリⅠに分類される「やさしい日本語」の文であるため、句点「。」と読点「、」はつけていませんが、スマートフォンでは、一文の終わりに句点「。」を付ける必要があります。

青森県危機管理局は、青森県防災ハンドブック「あおもりおまもり手帳」を製作し、青森県内の各ご家庭へ9月から順次配布しています。災害が起きた時、どうやって命を守るかなどについてわかりやすくまとめたハンドブックです。内容を十分に確認し、日頃から目につく場所に大切に保管しましょう。

* 青森県防災ホームページ（青森県危機管理局防災危機管理課が運営しています）

URL：http://www.bousai.pref.aomori.jp

（注意報・警報、避難情報等の青森県内の状況のほか災害状況や防災の心得などを掲載しています）

* 弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室ホームページ

URL：http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/index.html

このページは、弘前大学人文社会科学部社会言語学研究室にご協力いただきました。

JICA

topic

トピック

青森SDGsセミナーを開催しました

青森県の高中生や大学生がSDGs(*)を知り、私たちに何ができるのかを考えるきっかけとして、青森県青年国際交流機構（青森県IYEO）が主催し、「青森SDGsセミナー」を2回開催しました。

※ SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略で、2030年までに政府や企業を含めたあらゆる立場の人々が解決すべき国際目標として設定されました。持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されており、先進国から途上国まで、地球に住む一人ひとりが意識をして達成すべき普遍的な目標です。

第1回の5月27日は、「SDGsを知り、体験しよう」と題し、一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト代表理事の辰野まどか氏とシニアダイバーシティ・ファシリテーターの鈴木大樹氏を講師に迎え、SDGsの目標達成に向けた体験型カードゲーム「2030 SDGs」を行いました。

参加者は各グループ（国）に分かれ、各国が掲げるゴールを目指して他国との交渉やプロジェクトの実行などを行っていきます。ゲームの途中では、自分たちの目指す国づくりを進めていくことで、世界全体の「経済・環境・社会」のバランスが崩れていくことを体感しました。そして、各グループが環境や社会を優先したプロジェクトを実行するなど、「自分たちだけではなく、世界全体のためにはどのように動けばよいのか」といった考えのもとで動き始めると、世界の状況がより良い方向に進み始めました。

SDGsとは何か、誰のための目標なのかという疑問を、カードゲームを通して体験し、学ぶことができた貴重な機会となりました。



世界の状況メーター



カードゲームの様子



貧困について考えるワークショップ



第2回の参加者

第2回の6月16日は、青年海外協力隊経験者を講師に迎え、「私たちのSDGsアクションプラン作成」と題したワークショップを行いました。

日本のSDGs達成度や世界各国の状況を考えたり、「貧困をなくそう」というゴールに向かって、貧困から抜け出すための方策をグループで話し合ったりし、最後に自分たちがSDGs達成のためにできること（マニフェスト）を発表しました。

SDGsを知り、自分たちにできることを考える

ための本セミナーを通して、「全世界の人々のため、そして地球のために青森からできることを考えて、日常の中のできることから少しずつ始めたい」という想いが高校生・大学生に芽生えた貴重な機会でした。

JICA

JICA東北からのお知らせ



●JICA東北公式facebookで情報配信中です

東北出身JICAボランティアからの現地レポートや、東北5県での国際協力に関するイベント・セミナーの情報、JICA東北が行っている事業について随時情報を配信しています。ご興味のある方はぜひ「いいね！」をお願いします。

* JICA東北公式facebook : <https://www.facebook.com/Jicatohoku/>

JICA東北

JICAの事業についてご質問などございましたら、ご連絡ください。

TEL: 022-223-5151 (代表)

E-mail: jicadpd-desk-aomoriken@jica.go.jp



青森から世界へ ～JICAボランティア活動報告～

青年海外協力隊 2017年度2次隊 ブルキナファソ

佐藤 万里菜（弘前市出身：サッカー）

西アフリカのブルキナファソに来て、約1年が経ちました。
私の任地は首都ワガドゥグのすぐ隣にあるコムシルガ市です。
赴任した当初は、フランス語もほとんどわからず、ここで暮らしていいのかとても不安だったのですが、この1年間、私が何をやるにも常に現地の人たちが助けてくれました。たとえば私が道端に立っているだけで、通り過ぎた道を逆戻りしてまで「何かあったの？大丈夫？」と声をかけてくれるような、優しい人々に囲まれています。

ブルキナファソはキリスト教とイスラム教がそれぞれ約半分を占め、クリスマスも「タバスキ」と呼ばれるイスラム教のお祭りもみんなですべて祝います！そんな時は自宅に招待して、サラダや肉料理などの食事を振舞ったりしておもてなしをします。

また、「マキ」と呼ばれる簡易居酒屋のようなところへ数人で行くと、誘った人がすべての飲み物代を支払うというブルキナファソの面白いルールがあるのですが、その背景にはお金が入った時はみんなで使おうという習慣があるということを知り、この国がすごく好きになりました。

人々は物質的には決して裕福な生活をしているわけではなく、通りでコーラを飲んでいるだけで目立ってしまうような状況ですが、ご飯を食べていたら一緒に食べようと必ず誘ってくれるような「みんなで分け合おう」という精神がとても感じられる優しい国です。



小学校の女子チーム



木を切るところから始まるグラウンドづくり

季節は乾季と雨季が繰り返され、乾季は40度を超えるほど暑くなりますが、ジメジメした暑さはないため日陰に入ると過ごしやすく、木陰でお昼寝をしている人々をよく見かけます。雨季は30度を超えるにも関わらず、寒いと感じてしまった私の体は現地の人々に近づいて来ている気がします。

私の職種はサッカーで、ブルキナファソの女子サッカーのレベルを上げることが活動目標で、小学校に女子サッカーチームを作り、指導を始めました。

日本と比べて自由で課題もたくさんあるチームですが、日本にはない強みも持っている国だと思います。この国の女子サッカーが少しでも強くなるために、何かお手伝いができるよう残り1年頑張りたいと思います！！

この国ではまだ、サッカーは男子のスポーツという認識が強



ナショナルチームのモロッコとの国際練習試合

三沢基地内大学県民就学推進事業／三沢基地内大学春期就学者募集！

三沢基地内大学春期就学（3月下旬入学）への手続きについてよりよく知っていただくために、11月に説明会、12月にTOEFL ITP試験を実施する予定となっております。

詳細は、ホームページにてご案内をさせていただきます。

三沢基地内大学への就学をお考えの方、ご興味のある方は、どうぞお気軽に当協会までお問合せください。

TEL：017-735-2221（担当：工藤）／Email：info@kokusai-koryu.jp

website：http://www.kokusai-koryu.jp/business/misawa/

青森県内の国際交流事業・イベント紹介

●一般社団法人国際にほんご教育センター

— International Japanese Education Center —

今年6月、弘前市に新設されました「国際にほんご教育センター」です。

日本語をしっかりと学びたい外国人の皆さんを応援します！

ただいま、日本語指導者のボランティアを募集しています。

詳細は下記までご連絡ください。ホームページもあります。

■お申込み・お問合せ先：代表 鳴海さん

TEL：0172-38-7707（事務局）

E-mail：i.nihongo.e.c@ijec.jp

website：http://www.ijec.jp/

●NPO法人みちのく国際日本語教育センター

*外国人のための日本語講座

会話を楽しみながら、日本語コミュニケーション力を高めましょう。

■期 間：9/4～3/12 *途中からの参加も可

（12/19から2/4まではお休みです）

■日 時：毎週火曜日 18：30～20：30

■場 所：八戸市福祉公民館（八戸市類家）

■対 象：八戸市及び近郊在住の外国人の方

（レベル別にクラスが分かれます）

■受講料：時期により異なるのでお問合せください。

■お申込み・お問合せ先：

馬場さん／TEL：080-6051-3109

E-mail：npo-mijec@ezweb.ne.jp

明日山（あけびやま）さん／TEL：080-6026-3109

E-mail：npo-mijec-jimukyoku@ezweb.ne.jp

●青森日本語クラブ

*日本語教室

日本語を楽しく学んでみませんか？

少人数のグループレッスンです。

（受講・見学をご希望の方は、事前にご連絡ください）

■期 間：後期 9/5～12/19、3/6～3/13

■日 時：毎週水曜日 18：30～20：00

■場 所：青森県民福祉プラザ（青森市中央3-20-30）

■クラス：初級／中級

■受講料：1回400円

テキスト代：初級2,700円／中級3,024円

■お申込み・お問合せ先：代表 蝦名さん

TEL/FAX：017-782-1171

●みんなの応援隊ネットワーク

*楽しくおいしいランチ教室

思いやり、支えあう地域社会をつなぐために活動しています。

■日 時：毎月第3土曜日 12：30～14：00

■場 所：青森市中央市民センター 2階 料理室

■参加費：無料（※日本人の方はボランティア保険料及び参加料として300円をご負担ください）

■定 員：100人

■お申込み・お問合せ先：事務局 神山さん

TEL：090-7660-1583

E-mail：potlucksmore@yahoo.co.jp

*11/7は青森県ユネスコ協会と共催で、グローバルパーティを同日開催します。今年はイングランド料理と、韓国の言葉や文化を学びます。

公益財団法人青森県国際交流協会

International Association of Aomori Prefecture

国際交流ラウンジ／International Lounge

〒030-0803

青森市安方1丁目1-40 青森県観光物産館アスパム2F

ASPAM BLDG. 2F, 1-1-40, Yasukata, Aomori-shi.

Post-Code：030-0803

TEL：017-718-5147 FAX：017-735-5148

E-mail：lounge_supporter@kokusai-koryu.jp

事務局／Office

〒030-0803

青森市安方1丁目1-40 青森県観光物産館アスパム7F

ASPAM BLDG. 7F, 1-1-40, Yasukata, Aomori-shi.

Post-Code：030-0803

TEL：017-735-2221 FAX：017-735-2252

E-mail：info@kokusai-koryu.jp

Website：http://www.kokusai-koryu.jp

https://www.facebook.com/aomori.kokusai.koryu

https://twitter.com/aomorikokusai

・国際交流ラウンジ開館時間 9：00～18：00

・国際交流ラウンジ休館日 1月第4週月～水、12月31日

